［討議欄Ｂ・著者回答書式見本］　　（マージンは上下左右とも20mm）

（題目は中央に）　　見本

1 ―――――10―――――20―――――30―――――40―――――50――53

1【一行アキ】

「土木学会初代会長古市公威に関する研究」について【討議欄Ｂ】又は【著者回答】

【一行アキ】　（↑明朝12pt）　（↑ゴシック12pt）

『土木史研究』,vol(年),pp.　（ゴシック9pt）

5【一行アキ】

討議論文の出展を明記する。
『土木史研究』,巻名,ページ

討議者の場合は、タイトルの後に【討議欄Ｂ】を、著者回答の場合は、【著者回答】を付ける。

四谷　太郎*

【一行アキ】　（↑明朝9pt）

8　→　1～7行目までに討議題名、著者名をバランスよく配置して下さい。

9　　25□□□29

10　本文は8行目から始める。
討議者は、本文冒頭にて討議の対象論文と、
討議を行う理由を簡単に記すこと。
回答者は、指摘事項に対して回答の概略を簡単に記すこと。

15

【２段組みについて】
片側25字　真ん中に２～３字空ける
２段組みにて作成し、１頁に収める
（25字×51行×２段、文字明朝９pt）

20　**表－１**　ＡとＢとの関係

	A	B

25

〔表のキャプションは、上に記載〕

30　図・表・写真は、片段に納めていただきますが、文字が小さくなる場合は、全段を使用して下さい。（空きへの文字の組み込みは、原則としてさけて下さい）。

35

40

図－１　ＡとＢとの関係
〔図のキャプションは、下に記載〕
写真－１　四谷の地下空間（撮影：○○、1992）
〔写真のキャプションは、下に記載〕

45　**・図－○、表－○、写真－○**の文字はｺﾞｼｯｸ体9pt、ｷｬﾌﾟｼｮﾝ内容は明朝体9pt として下さい。

２～３字
空き

新しい章に移る場合は１行空ける
章---　１　　２　・・
節---（１）　（２）　・・
項---　ａ）　　ｂ）　・・（ﾌｫﾝﾄはｺﾞｼｯｸ体9pt）

【引用について】
他の論文や著作からの引用は、それが明確になるよう記述してください。
例
①文章をそのまま引用する場合
引用文の前後を１行あけて、引用文を１字下げか「　」などで囲む

②引用文を本文中に記述する場合引用文を挿入する場合はそれを「　」などで囲む。

著者の表現で記述する場合は不要。
①②いずれの場合も、必ず引用箇所の直後に（　）内で引用文献を記すか、または参考文献の表記方法に従って引用箇所末に番号を付し、引用文献を示すこと。

【参考文献について】
参考にした文献は、引用順に番号をつけて本文末にまとめて記載し[1)]、文中にはその番号を右肩に示して[2)]、文末の文献と対応させてください。

参考文献←ゴシック体9pt、以下明朝体9pt
１）Lamb,H：Hydrodynamics,6th ed.,Cambridge
〔表のキャプションは、上に記載〕
Univ.Press, P.65, 1964.
２）Miles,J.W.：On the generation of surface waves
by shear flows, J.Fluid Mech., Vol.3, Pt.2, pp.185～204, Aug.1957.
著者数が多い場合、第一著者に続いて、図・表・写真のキャプションは、et al.と省略下さい。
英文併記の必要はありません。
３）土木学会編：『ﾆｭｰﾌﾛﾝﾃｨｱ地下空間』,技報堂出版, pp. ９～15, 1990年.

←　脚注は罫線以下に記載する

50　*正会員　工博　土木大学教授工学部土木工学科
51　（〒160-0004　東京都新宿区四谷１丁目無番地）

※右段は下マージンまでスペースを使用する。